

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による評価

【平成29年6月21日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員 評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		現状・具体的な取組み等	現状・具体的な取組み等			
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4	理念や目的は別に明記し、育成人材像は入学案内や学生便覧に分かりやすく表紙で明確にしている。	特になし。	4	専門職業大学への移行を期待したい。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	厚生労働省の指定養成施設として、指定科目の履修以外に就職フェア等を通じて、業界連携を図っている。また、教育課程編成委員会を定期開催し、業界ニーズに呼応する人材育成を目指している。	特になし。		
	1-1-3 理念等の達成に向け、特色のある教育活動に取り組んでいるか	4	指定科目の履修だけでなく、入学前教育システムを展開している。また、海外研修や就職フェア等、特色ある教育活動を継続して行っている。	生涯教育の視点を含め、更に高い専門性と使命感のある看護師の育成が課題である。各教員が学生と向き合い、更に症例研究発表会等の取組を強化し、卒業後支援を継続して行きたい。		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	将来を見据えて大学のイノベーションを促せるよう日頃から法人、学校単位で情報収集を行い、卒業生への支援(法人と連携して取り組んでいる。今後ますます社会のニーズが増すと考え、入所定員40名から80名へ増員する申請を行い、平成27年4月入学生より、80名とすることができた。	平成31年の専門職業大学(仮称)の移行に向けて、情報収集を重ねて検討していきたい。		
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	理念に沿った法人の運営方針を軸として、本校の運営方針を定めており、事業計画と併せて企画や研究にて教職員への周知徹底を図っている。また、教務会を週に1回、教職員全員参加による実施し、学校・学科運営が理念に沿って行っているかの検証にも努めている。	グループワークの導入の理念に基づき、看護師養成校として毎年学校目標を策定し教育活動を推進している。	3.8	教職員の研修会には、どのようなものがあるのか。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画は定めているか	4	毎年、年度当初に事業計画の概要を発表し、教職員への周知徹底を図っている。細目的達成のために長期・中期・短期の定性的目標と定量的目標を定め、会議や研修等を通じて目標をクリアするという共通の意識を教職員全員に持たせ、各人の行動力の場を定めている。また、教職員一人ひとりの目標設定もサポートしている。実際の運営の検証・指導・支援体制も設け、計画進行の確認、問題点の早期発見と対策等、業務改善のプロセスも確立している。	事業計画を各人がよく理解し、その計画を遂行していく中で各自のリーダーシップが発揮でき、教務部や事務部の人材育成がなされていくと考えている。そのために、教職員の育成、成長が非常に重要である。次年度は、1年から3年まで学生数80名になる。事業計画に基づいた運営力を入れて行きたい。		
	2-4-1 設け法人は組織運営を適切に行っているか	4	法令に則り、理事会、評議委員会が開催され、法人の運営状況を確認、検証している。本学園の幹部会議では法人内の各学校の管理・運営状況を確認・情報を共有し、リスクに関して、迅速な対応ができるようになっている。	特になし。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	組織に基づいて、適切な運営ができていくかどうか学内の管理運営会議等で確認、検証し、教務会や教職員会議を通じて、教職員へ報告・連携、情報共有を図っている。	会議の決定事項の理解と実行度と部署や個人差が生じないようにフォローをしている。教務部と事務局の連携業務について、取り組み目的やスケジュール、役割分担等を明確にすると共に、その活動に関わる者が可視化できる共通プラットフォームの使用と合同研修会を推進しようとする。		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	就業規則では、総則において教職員の等級を定め、採用や任免、給与、教育訓練等についても明記され、給与や退職金については給与規定、教職員退職規定において詳細に定められている。就業規則の検証も法人の幹部会議で毎年行っている。学校にないが、専任教員の人件費(採用・研修)に示すか、この計画に基づいて年間の採用・研修が実施される。インセンティブや業績評価システムについても明記され、人事考課の基本方針となっている。	特になし。		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	会議規程を基に、事業計画に意思決定システムとして、各種会議やミーティング、委員会を明記している。総学生数が240名程度の小規模の学校であるので、学校長を柱として副学長、学部長、事務局次長が常に連携しながら運営にあっている。	特になし。		
	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4	創立以来、AS400で情報を管理しており、業務の効率化が図られている。入力、閲覧、出力の面で使いやすい。また、AS400からクラウドに移行している。また、1人1台ノートパソコンを使用しているため、教職員全員が毎年IT-リテラシーテストを受けている。今年度はJPAIC(一般社団法人日本プライバシー認証機構)の研修を受け、ネット上の個人情報保護や流出防止のための意識付けを行った。	各教職員へのパソコンの貸与と共に定期的なメンテナンスを行っている。また、IT-リテラシーの周知徹底とパソコンの共有データの整理や契約の月を定期的に設け、安定した情報システムの管理を行っている。今後は就職データに関して業務の効率化を図るようシステムを導入し運用体制を整える。		
3 教育活動	3-0-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	各法令に基づき、理念に沿った教育課程の編成や実施の方針を学則、学生便覧等に明記している。	なし	3.7	現場(実践教育)を意識し、学内の学習教課程を工夫すると、更に良い学習効果が得られると思われる。  現場では世代の違うスタッフ教育や支援、連携の図り方が大切である。若者の態度教育について、(例)言葉遣いや所作、ON/OFFの切り替え等、社会人としてのマナーはどの様に教育しているのか。  ・社会ニーズを踏まえた教育についての様々な取り組みを実施しているか。 地域包括ケアと国際看護教育の具体的な内容について例を挙げ説明してください。  ・新人教育:プリレプター制度、新人看護教員の教育制度はあるのか。
	3-0-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	「学生便覧」に教育課程を明記しており、作成した学科ミッションに沿って、教務会等で到達レベルまでのプロセスや状況を把握している。また、科目毎のシラバスもその趣旨に沿って示している。	建学の理念に基づき、厚生労働省の看護師養成ガイドラインに沿って、入学前から在学中、そして卒業後の教育システムを構築している。また、卒業後の学習目標と卒業時の到達レベルについても明確に示している。		
	3-0-3 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	「教育課程」では、学科の修業年限内「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野1」「専門分野2」に、統合分野が体系的に配置され、段階的に効率よく学習できるようにしている。	看護・医療業界の将来を見据え、そのニーズに合致するカリキュラムデザインを行う必要がある。具体的には、昨年度より実習学習科目として1年次から実習現場を想定した体験型学習を導入している。更に、業界連携の強化と業界ニーズに対応できる最新の知識・技能習得に向けてカリキュラム改善等を行っている。		
	3-0-4 教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	本校は開校以来、就職先や学外来賓先、海外研修先等提供校、学生出身校、講師、保護者等からの意見や情報を収集し、業界が求める専門性と社会性を身につけた人材育成のために、教育課程の編成改善に取り組んでいる。また、教育課程編成委員会を設け、開催しており、今後も委員も活用して、より良い教育課程を構築する。	学校教育に関わる各ステークホルダーとの意見交換や情報収集の機会は得ているもの。学校全体としてその意見を集約し、データベースにしていくことが課題となっているため、教育課程編成委員会等でその情報についても検討し継続して、昨年度は看護師としての倫理観・人間教育の観点から、実践教育の観点について意見交換された。また、業界OBとのネットワークの整備についても強化に取り組んでいる。		
	3-0-5 キャリア教育を実施しているか	4	キャリア教育に対する学園としての考え方やフレームを「キャリア教育ロードマップ」として作成し、全校教員一斉の方向で取り組んでいる。また、これは、単なる「学び方、働き方、生き方」を学生に伝えられるように、生活習慣の定着と学習習慣の定着に取り組んでいる。	入学期から卒業まで一貫してキャリア教育システムを各学習段階で一層整備する。学年毎に以下の内容に取り組んでいる。1年次:マナー・挨拶教育。2年次:看護職の責任・看護実践に必要な力。3年次:自己を1年生より看護師として働く職場を想定する。また、対人支援と適切な情報処理やコミュニケーション力の習得についても力を入れる。		
	3-0-6 授業評価を実施しているか	3	コンピュータでの入力、集計、管理を行っている。フィードバックに関しては、結果を学内で検討する資料として活用するとともに、講師の教授法と内容・理解度・満足度、学生本人の出席状況・授業態度・学習姿勢について、必要なものは授業担当者へフィードバックを行っている。	学生用の授業アンケートに自記式の記入欄を設けて学生の生の声を汲み取る為の工夫をしているが、外部講師に対して授業評価のフィードバックが難しい。		
	3-10-1 成績評価:修了基準を明確化し、適切に運用しているか	4	学則、履修規程に基づいて、規定の出席率以上の者が受験資格を得ることができ、筆記試験や実技試験で一定の評価以上の者が単位を認定される。また、年度末に各年度の学習状況を履修認定委員会にて協議している。	特になし。		
	3-10-2 作業及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	専攻分野に関する学習を要めると共にグループでの協同学習に取り組んでおり、看護看護学生研究大会への参加や、姉妹校の卒業研究発表会(看護学フォーラム)の発表もしている。更に今年より、本校独自の症例研究発表会を開催し看護職の研究にも力を入れている。	平成27年度より、本校独自の症例研究発表会を開催。ケーススタディ、調査研究、実践研究、発表会等の場を設けて看護学生への関心と実践力との研究に努めている。次年度は業界やOBを巻き込んだ学びの機会としたい。		
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置付けているか	4	看護師資格取得は教育課程上で明確に位置づけられており、就職との関連性を学生達に伝えている。学習意欲を高めるためのクラス運営や個別対応等を実施している。	特になし。		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	学内に国家試験対策委員会を設け、模擬試験による客観的な能力評価、得意科目のチェックなどを行っている。また姉妹校や学園グループの国家試験対策センターとの連携を強化している。	受験生全員の合格に向けて、成績低迷者の個別フォローのあり方を改善する。また、姉妹校と連携して学習成績のデータベースを活用し、毎年の国家試験の出題傾向把握や対策の策定を行っている。これらにより、低学力者への学習支援やメンタルサポート、キャリアガイダンス等、資格取得体制の整備に努めている。		
3-12-1 資格・条件を満たした教員を確保しているか	3	各要件を満たした専任教員を配している。しかし、1学年定員が80名となり、2クラス運営によることや実習施設の数による教員の業務負担を考え、今後も教員の確保に努める。法人事務局と連携し、新卒採用に力を入れている。	現在、教員要件を満たしている者が11名。大学院での教育科目履修者や遠征教職課程の履修者を含め、次年度は増加の見込みである。一方、講師は高給位が込み、受講する学生の質や業界動向に柔軟に対応できる教育体制の整備にも注力する必要がある。			
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	4	専任教員は本学園全体の教員研修や学会等があり、本校独自の勉強会も開催し、教員の資質の向上に努めている。	職業人教育を専門教育+キャリア教育と考え、養成課程に囚われず、学生の学び方・働き方・生き方等に寄与できる教育力を養うために、年度計画に基づいて教員ひとりひとりのキャリアに応じた学外研修会への参加を実施している。一方、学内においても新入職研修やFD(スキルアップ・スキルレベル・マクロレベル)研修、マネジメント研修等を行い、教員の資質向上に努めている。			
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4	学校長を教育の統括責任者として、現場の統括については副学長・事務局次長が行い、学部長を中心とした教員組織の運営体制を敷いている。部署連携については、教務会や教職員会議を通じて連携を図っている。	教務会を週に1回定例実施している。事務局次長が参加し、教務と事務の情報共有を図っている。			
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	就職率100%を継続達成している。入学年次より就職対策講座や業界セミナー等を実施しつつ、法人主催の就職フェア等の経験を通じて、社会基礎力を培うと共に就業意欲を向上させる取り組みを行っている。求職活動に関しては実習現場を中心に活動し、副学長を中心とした就職対策委員(資料提供・面接指導・面接対策等)も力を入れている。	看護師は社会のニーズが高く、就職に関しては特に問題無い。しかし、本家であれば指導体制の整った実習現場を中心に学生全員が就職決定して欲しいが、学生が個人的に希望する就職先や職種に就職できないなどの問題も出ており、今後の就職指導のあり方を改善する必要がある(昨年度の実習施設への就職は70%)。また、助産師学校の進学を目指す学生が若干名おり、そのサポート体制も早期に整えたい。	3.3	国家試験対策不合格者一人ひとりに対しての丁寧なフォローを期待したい。(苦手分野の把握・分析-対策指導)
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	昨年度の反省をふまえて、姉妹校の取り組みを参考に1月1回の模擬試験を中心に、試験後の個別対策を実施した。試験の結果は以下の通りである。 【本校】 合格率 93.0% 【全国平均】 88.5% ※(現役生の合格率:95.9%)	本校は、学生の全員受験を原則としている。国家試験対策として、国家試験対策センターによるグループ合同模試、姉妹校看護学科との合同学習会を定期的な実施し、学習と合格率100%を目指す。昨年度までの合格率はほぼ100%を維持しており、今年度同様、不合格者へのフォロープログラムを策定し、次年度の国家試験を必ず合格させる。			

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による評価

【平成29年6月21日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員 評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		現況・具体的な取組み等	現れている…・4 ほぼ適切…・3 やや不適切…・2 改善が必要…・1			
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	同窓会の役員会議を重ね、昨年度 第1回同窓会総会、講演会を行った。以降、卒業生の状況調査を継続実施している。実習施設に就職した卒業生については、実習の打ち合わせや研修に積極的に参加している。また、卒業生が活躍している企業や団体からの活躍次第となる。卒業生の評価が高いと実習施設から受け入れを拒否される恐れもあるため、それを念頭に教育は日々の学生教育、指導に努めている。	卒業生に対して、転職や再就職状況等、情報収集を行っている。今後も同窓会活動や研修会活動を積極的に進め、卒業生の社会での活躍や評価データを収集する仕組みを構築していきたい。		
5 学生 支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	本校は1学科のみ小規模校のため、キャリアセンター室は設置せずキャリア担当職員(各と教員とで学生の各種就職相談に対応している。(オリエンテーション、保護者就職説明会、合同就職フェア、業界ガイダンス等) 看護師の国家試験に合格し、看護師資格を取得することが就職できる条件となるため、まずは就職内定を確定させてその後国家試験に全力で取り組めるよう指導している。	特になし。		学校に登校できない学生や各種相談等、各々への進路アドバイスはどの様に行っているのか。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学となる主な理由として、学生自身の学力不足、進路変更、交友関係、体調不良、意欲低下などがあげられ、近年の傾向として入学時より精神的・心理的な問題・課題を抱える学生が増加する傾向にある。平成28年度:3.7%(8/214) 退学率の低減に向け、学生サポートの研修や各種研修会への参加、学内教務会を速し各教員の質向上を図っている。	学生自身の多様化、退学理由の複雑化に対応できるよう、教員の質向上を図るとともに、入学前からの学生支援システムを改善する。 毎年、年度当初に「学生サポートアンケート」を実施。各学生のフォローに活用している。学生支援へのニーズについては、学生の出身校の教諭や保護者、また専門家(スクールカウンセラー)との連携を図り対応する。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	学生相談室については、保護者を始め、入学前の学校説明会から告知し、入学後の「オリエンテーション」は相談室の活用方法と相談内容について説明している。精神的な問題を抱える学生でもスムーズに学生相談できるようにしているが、精神面の症状によっては、医療機関への取次ぎや紹介も行っている。	新大阪駅前の姉妹校の「SSC(学生サポートセンター)」を設置しており、今後も学生間の個人情報を尊重し保護するとともに、サポートアンケートや学生サポートカードを有効活用し、カウンセラー等職員が連携体制を築いて学生支援を図っていく。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	開校以来、留学生は入学していない。	中国の短期留学生を法人として受け入れているので、今後のことを踏まえ法人の海外事業部との連携し、相談体制を整備していきたい。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	入学前の学校説明会から対応し、入学時から卒業までを見据えた支援をしている。内容は日本学生支援機構の奨学金、及び学費の納付である。在校生の約4割がこの制度を利用している。奨学金に関しては、学内に事務担当者を配置し、奨学金相談と手続きの窓口となっている。	病院奨学金を希望する学生に対しては、担当窓口を設け各種相談に応じるとともに保護者や学生へインフォメーションしている。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	定期健康診断は、28年度で検診学生受診率は100%である。グループ企業の「慶生会クリニック」では内科・歯科・皮膚科があり、健康面での支援サービスをしている。	再受診が必要な学生は、クラス担任がフォローアップしている。	3.7	
	5-19-3 学生生活の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	支援としては生活アドバイザーの設置、健康管理支援サービス(慶生会クリニック連携)など、指定施設以外でも入居する学生には、アパートや不動産仲介業者の紹介を実施している。また全学生への緊急時対応確認メールシステムを導入している。	特になし。		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	本校では学生数や授業時間の問題もあり、クラブ活動は行っていないが、体育館を使用し「プレイエーション」活動を行っている。また支援体制として教職員と任命されたボランティア委員とで連携し、学際祭や体育祭、栽培祭等の各種イベント等を行っている。 また、球技大会などの行事では、姉妹校の大阪医療技術専門学校と合同で開催出来るよう取り組んだ。	クラブ活動は無いが、積極的なボランティア活動を勧めており、徐々に社会貢献活動をする学生が増えつつある。学校行事に関しては積極的に活動するのでも、そのエネルギーを外部へも発揮していく必要があると考える。		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	保護者への連絡を密にすることを重視している。 入学式、保護者会 12月31日～1月31日 各学年毎の「保護者懇話会」を実施 教育相談、教育相談室、授業の様子、業界就職状況、保護者からの質疑応答等、また、保護者を希望される保護者には、個別面談を実施。 更に3年次については、12月に国家試験対策を主とした保護者会を行っている。	保護者懇話会について、全体説明の時間配分、質問対応など個別面談が保護者にとって負担とならない配慮を心がける。必要があれば、副校長や学部長、事務局長による面談も行って、早期に問題・課題解決ができるよう取り組んでいる。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	昨年度、同窓会組織を立ち上げ7月に同窓会総会、講演会を実施した。会の目的は、会員の相互の親睦、キャリアアップと母校教育の振興に寄与する事で、姉妹校の進捗を参考し、諸事業を実施している。	同窓会総会、講演会を行ったが、今後も同窓会活動や学際研修会活動を積極的に進め、その役割を明確にし、更なる卒業生支援の活性化を図りたい。更に、6月11日に大阪滋慶学園の設立30周年記念事業があり、姉妹校との連携を高められる同窓会活動		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	本校独自の研究会活動を行うと共に、法人の生涯医療経営管理研究センターや生涯医療学大学院が学生が主眼となる業界セミナー等を卒業生に案内し、姉妹校と連携し卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。	平成29年度 法人主催の業界セミナー(卒業後の再教育プログラム) 事例から学ぶ施設管理者の事故対応 ～事例に基づいたスクラシメント～ 「インテグレーション」による「OHP」の活用 地域包括ケアにおける看護の役割 等			
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	ネットを活用した遠隔教育や国家試験対策(L-Web)を行なうなどを整備している。	今後のインターネットやタブレットの更なる普及を考えると、ネットを活用した教育環境を整備を充実させていく必要がある。			
6 教育 環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	厚生労働省から指定されている施設・設備・教育用具等は整備されており、専門員として技術者としての役割を担っており、充実している。またPCルームや図書室を整備しており、学生の学習意欲を喚起している。 学生学習室 メタバースセンター、在宅看護実習室、図書室、母子実習室、看護実習室等、体育館等学生に分かりやすいように学生便覧に配置図を掲載し、その位置を把握させている。	特になし。		臨床実習を充実させるうえでも、学外実習の時期や受け入れ人数等、実習病院との連携・調整を図って欲しい。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習は指定科目として設定されており、看護職としての専門業務能力の向上や対人スキル等の向上を目的とし、実践的なプログラムの実施を行っている。 海外研修では実習先のみならず、医療制度や文化の相違、医療サービスの現状等を海外の教育機関校での学習や施設見学等を通して行っている。	学外実習については新規の実習先の確保自体が難しくなっていることと、実習先で実施される教育内容の差が大きいことが課題である。法人や姉妹校と連携し、1学年80名が確実に履修できるようにシステム改善を図っている。 「文化共生コミュニケーション」は今年度目録内にも実施している海外研修については、今年は買付の面から研修の充実を図っていくことが重要と考えている。		
	6-24-1 防災に関する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルを作成し、教職員には周知徹底している。また、学生も本校関係者全員に防災マニュアルブックを作成し、配布している。 防災訓練は毎年実施するとともに、防災設備の定期検査や緊急連絡網の整備も行うとしている。	現在、防災訓練については本校単独で行っている。今後、大規模災害を想定した場合、隣接する刀根山病院と共同での訓練等も検討しなければならない。また、備置する物品の購入や保管等についても、改善するの余地がある。また、教務室や図書室で書棚等の転倒防止対策が実施されていないのは対策を講じた。		
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	本校は現状も、全教職員にもエレベーターが無い校舎のため、校舎管理や防災訓練に基づき、新教職員も管理体制を整えている。	避難経路や非常口・階段、AED設置箇所や駐輪場の拡大等、その管理体制ももう一度確認し、不備の点があれば整備したい。			
7 学生 の 募集 と 受 入 れ	7-25-1 入学試験等に関する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	広報担当や教員が、定期的に高校訪問を行い、看護師養成に関連する事業動向や教育情報の提供を行っている。また、1年生は6月に母校訪問を行い、現状を先任担任や指導教員の教員へ報告する。このような取り組みを通して、出身校との信頼関係構築に努めている。	出身校の訪問活動は限られているが、母校訪問は非常に好評である。今後は本校の認知度向上や国家試験結果、就職状況の情報を発信するため、高校教員を対象としたセミナーを開催するなど、効果的に高校教員へアプローチを掛けている。		近年の看護師を目指す求職者の志向性の変化を感じる点は、どんな事があるか。
	7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的にしているか	4	キャリア教育の一貫として位置付け、教育実習や就職状況に基づいた学生募集活動を広報計画、スケジュールに基づいて実施している。募集要項は入学試験や学費等について明記し、正しい情報提供として入学希望者へ無料配布している。	ホームページ上での情報提供のあり方について改善を重ねたい。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適正に運用しているか	4	学則並びに規程に基づき、各回の選考日の2～3日後に指定のメンバーで判定会議を開催し、合否判定については合否基準に則って確定している。	特になし。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	広報担当や学科教員が入学前に合格者の学習環境や学習スタイルを分析し、過去のデータと比較して、入学後の授業展開方法や個別のフォローのあり方を毎年検討し、改善している。	全入内定者に入学前教育を実施しているが、学習環境が定着する学生や学力が低い学生へのサポートが課題である。29年度においては、育成しながら入学まで個別にフォローしていけるシステムを構築している。	3.8	
	7-27-1 授業内容に対応し、学納金を算定しているか	4	学納金は、事業計画の中で収支計画をたて、理事会の承認を経て決定している。 入学予定者に関しては、入学・授業料・実習費・設備費について、募集要項やホームページに記載している。また毎年、教材費などの諸費用に関しては無駄がないか精査、改善を図っている。	特になし。		
7-27-2 入学選考に際し、授業料等について、適切な取組を行っているか	4	募集要項には、分かりやすく入学辞退に関する手続きを記載している。	未だであれば「専願」で受験し、合格した者が辞退することは無いはずだが、昨今は入学試験の種別、取り決めに関わらず、自己都合で入学辞退する学生の対応に苦慮している。			
8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	負債の返済率に対する割合が基準を満たしている。 債務返済に努めている。	経費の見直しや収入の増加によって現金預金の流動資産に対する割合ももう少し増やそうに努力していく。		
	8-28-2 学校及び法人運営にかかるとする主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	主要な財務比率を算出して年比較を行っている。	今後とも6か月の予測を立てて、収支改善に努力していく。		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	毎年の事業計画に照らして予算執行を行っている。	中期計画は多少の変更が生じるため、毎年の事業計画によってその変更を予算に入れ込んでいく必要がある。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	毎年の事業計画に照らして予算執行を行っている。	特になし。	4	

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による評価

【平成29年6月21日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 改善が必要…1	現状・具体的な取組み等			
9 法令等の遵守	9-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	定期的に監事のヒアリングを受け、決算日後に公認会計士と監事の会計監査を受けている。	特になし		
	9-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財務情報を知りたい利害関係者のために閲覧体制を整えていると同時に、HPでも公開している。	特になし		
	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	本学園に常務理事を委員長にコンプライアンス委員会が設置され、コンプライアンスの推進に関する基本方針の策定、教職員に対する啓発及び教育・研修、コンプライアンス上の疑問や問題・法令違反事象等の通報に対する対応を行っており、本校でも教職員がコンプライアンス上問題となる事例、またはその恐れがある事例を発見した場合に報告する相談窓口を設置している。	一つの過失で、社会的信頼を失うことになるため、今後も教職員の研修に力を入れていく必要がある。学園ならびに本校においてもコンプライアンスの推進に関する教職員に対する啓発及び教育・研修を継続して実施していく。		
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	「学生便覧には個人情報取り扱いについて明記し、オリエンテーション時には学生に説明している。また学内には個人情報保護委員会を設置し、その取り扱いについても詳細に記している。」 個人情報保護委員会 委員長は、個人情報管理責任者(学校役員) 委員は、個人情報管理責任者、個人情報管理担当等 各種マニュアルの整備、職員教育、問合せ・苦情受付等 その他、セキュリティ面も強化してTRUSTeによる認証を受けている。	個人情報保護委員会の設置に伴い、学園グループで設置しているコンピュータ委員会にてITリテラシーガイドラインを作成し、ITを利用する上でのモラルやマナーの体得に向けて全教職員が学習している。これらに加え学生は、情報科学系の授業にて正しいITリテラシー教育を受けている。 更に27年度より、全教職員がIPAより一般社団法人日本プライバシー認証機構の研修を受けた。今後、毎年この研修を受講し、意識付けを行っている。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	職業実践専門課程の申請もあり、法人として共通の項目で自己点検・自己評価を実施した。実施体制としては会議体にて委員会設置を明記し、当該年度内で定期的な評価を行った。	今後は姉妹校同様に、私立専門学校等学校評価研究機構(以下機構)に加盟し、平成30年度に自己点検・自己評価を実施し、第三者評価を受ける予定である。		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	学校関係者評価委員会でも使用するフォーマットで公表している。	法人内の各校と共通の項目で実施しており、公表スタイルもホームページに「情報公開」のタグを設置して、法人内で統一している。		
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会を開催し、評価内容や現状、次年度重点課題設定等の妥当性について評価をいただいている。	中長期ビジョンに立った学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の運営、学校改善の方向性を見出し、必要がある。			
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4	法人共通のフォーマットで行っている。ホームページ上で結果を公開している。	特になし。			
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的にしているか	4	看護師国家試験を受験した結果(受験者数や合格者数、合格率)や就職内定率などは、校生進路委員会や入学案内等で公開しており、ホームページ上では職業実践専門課程の現況を、公表している。	情報公開の形式、手段等は法人内の各校で合わせている。 学校の概要、目標及び計画、学科教育、教職員、キャリア教育、実践的職業教育、教育活動、教育環境、学生の生活支援、学生納付金・修学支援、学校の財務、学校評価、国際連携の状況、その他)			
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	本校の教室や体育館を近隣の刀根山高校や大阪府看護協会の新人研修に開放するなど、校舎・設備の開放は依頼があれば積極的にこなしている。 また、地域温暖化防止への取り組みを推進しており、校舎内の不要な電気の消灯、節水、ゴミ分別、ゴミの分別、教職員のカラビズ等に取り組んでいる。 更に、実習施設による業界ガイダンスセミナーや法人主催の就職フェアでは、府内を中心とした事業所へ人材提供を行っている。	館内施設や設備を刀根山病院をはじめ、地域の保育園や幼稚園、企業、各種団体へ開放し、積極的に住民の方々と交流を図っていく。 開放の際には、運営費を徴収しており、刀根山病院をはじめ、外部の方々にも利用していただくように取り組んでいる。 また、法人主催の就職フェアでは社会貢献事業として大阪府や日本赤十字社と協力して献血事業を行っており、本校としても積極的に寄与していく。		
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	研修先と日程は以下の通りである。 【研修先 シティカレッジ・オブ・サンフランシスコ・ピーアースカレッジ】 【研修日程 2018年9月27日～10月5日、2018年10月9日～10月15日】 【学生は2年次に「異文化コミュニケーション」という科目で、海外教育提携校であるアメリカ見学及び学校説明のみで、完全な「交流」にはならない。今後は国際教育の具現化に向け、短期間でも海外からの学生を受け入れることができるよう環境整備をしたい。】	学生には海外で学ぶ機会があるが、逆に海外からの学生や教職員の受け入れはまだ見学及び学校説明のみで、完全な「交流」にはならない。今後は国際教育の具現化に向け、短期間でも海外からの学生を受け入れることができるよう環境整備をしたい。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	ボランティアについては毎年、実習施設や地域から協力依頼を受けている。ボランティアの依頼があれば、教職員が窓口となって学内の掲示欄に情報を掲示し学生に告知、学生が件別に活動できるよう支援しているが、今後は更に学生達の自主的な活動を支援する体制を整える必要がある。	地域の清掃活動、病院での専任活動などを行っている。次年度からは、豊中市の市民協働部や刀根山地区の地域自治協議会の活動にも参加し、地域に根ざした社会貢献活動を進めていくように努める。専門学習のみならず、地元住民と協力した活動や国際的な視野からのボランティア等、貴重な体験活動の機会を学校として積極的に支援し、看護師を目指す学生達の1-タートルな資質向上を図りたい。		

3.8

これまでの看護教育は病院中心であったが、これからは人間が生活するフィールド全般を見据えて教育展開を進める必要がある。  
また生活の場においても、乳幼児から高齢者までの幅広い看護の実践力を育む為に、視野を広く持たせる教育が必要であると考えます。  
海外研修の概要説明をお願いしたい。また、どの様な教育効果が期待できるか。